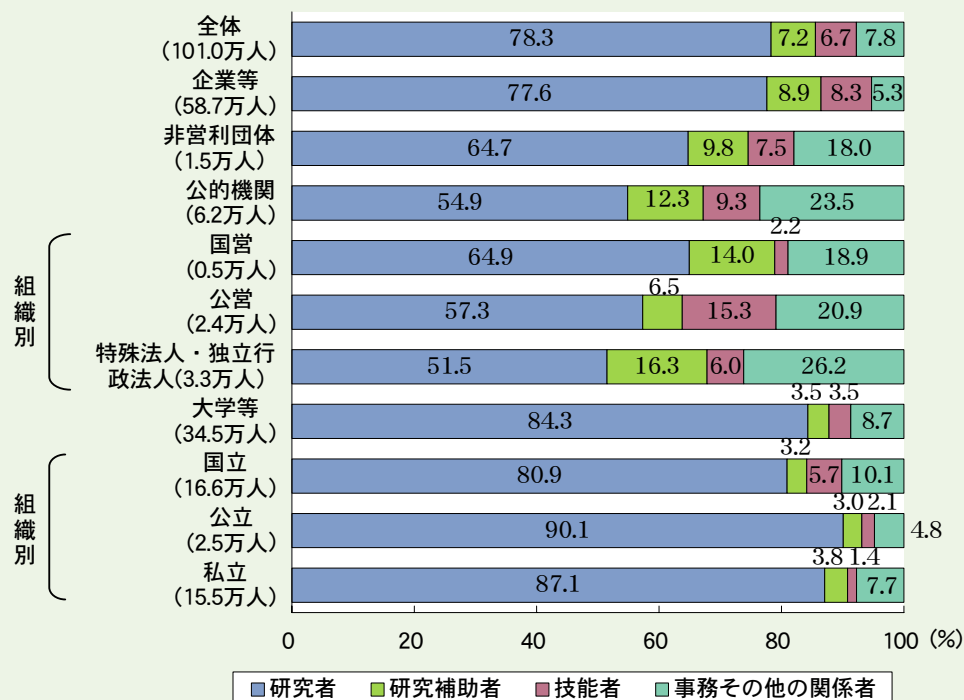


第2-2-20図 ▶ 我が国の研究関係従業者の組織別構成比（平成17年）



注) 各研究従業者数は、人文・社会科学を含む平成16年3月31日現在の値である。
資料：総務省統計局「科学技術研究調査報告」

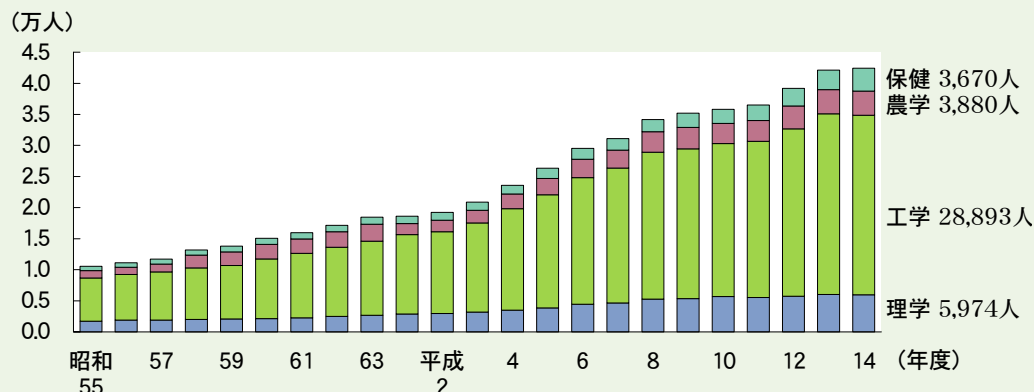
第3節 ■ 研究人材の輩出と雇用

● 学位取得者数の動向

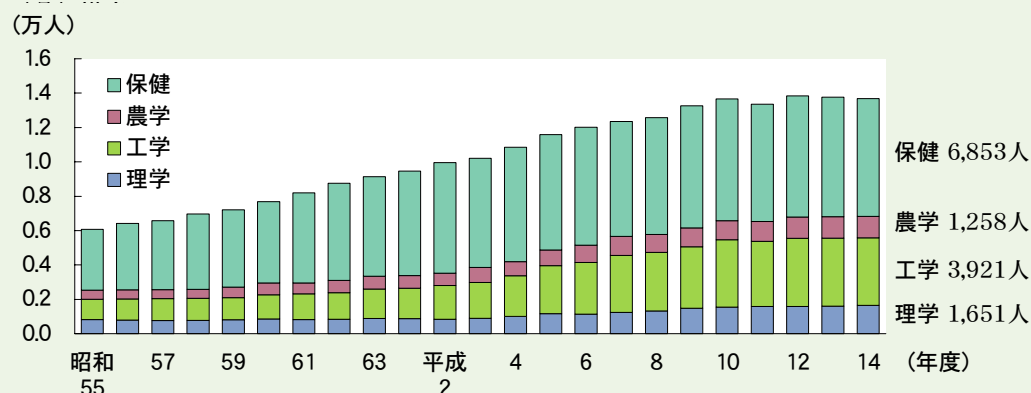
我が国における自然科学系の修士及び博士の学位取得者数は、大学院の拡充により増加を続けてきたが、平成12年度は博士が直近のピークとなり、その後減少に転じ平成14年度は平成10年度と同じレベルまで戻った。5年間で見ると、平成9年度に比べ平成14年度には修士が1.11倍（年平均の伸び率2.1%）、博士が1.11倍（年平均の伸び率2.2%）となっている。平成14年度の専攻分野別で見ると、修士課程では工学分野の2万8,893人、博士課程では保健分野の6,853人が最も多い（第2-2-21図）。

第2-2-21図 ▶ 我が国の学位取得者数の推移（自然科学系）

(1) 修士



(2) 博士



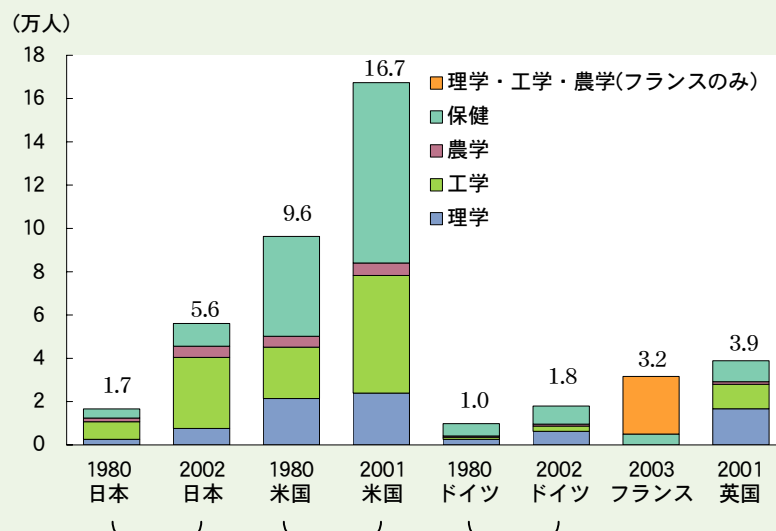
注) 図中の数字は平成14年度の学位取得者数である。
資料：文部科学省「文部科学統計要覧（平成18年版）」

修士及び博士の学位は、国の文化や学位制度の違いにより様相も異なり、また、その取得者数も産業構造、学齢人口、高学歴化等種々の社会的要因により推移し、一律に比較はできないが、ここでは、主要国における自然科学系の修士、博士等の学位取得者数の特色を見る。

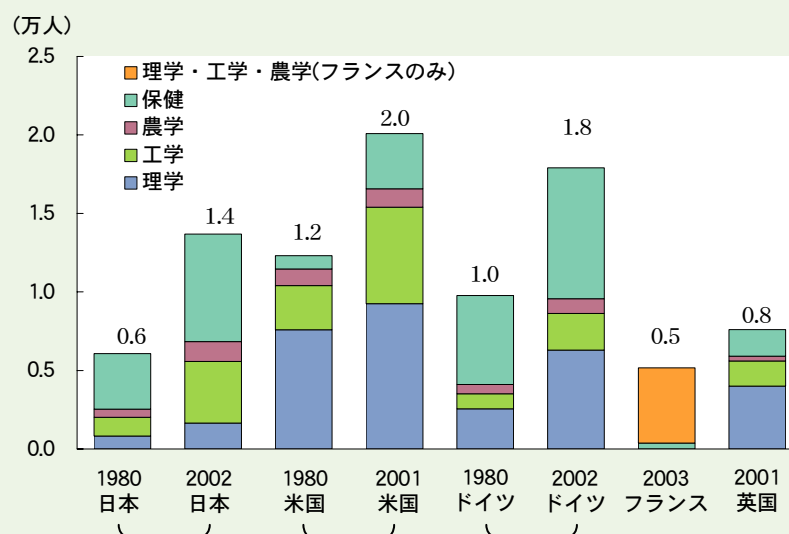
米国の学位取得者数は、他の主要国を引き離して多く、我が国の3倍強であり、1980年度（昭和55年度）との比較では工学系及び保健系の割合が増加した。我が国は、米国に次いで学位取得者数が多く、工学系の比率が高いのが特色となっている。続いて、英国、フランス、ドイツの順となっている。この中でドイツは理学系及び保健系の比率が高く、英国は理学系及び工学系の比率が高いことが特色となっている。また、博士号だけに限ると、理学系での日本の学位取得者数は、主要各国と比較するとかなり少ない（第2-2-22図）。

第2-2-22図 ▶ 主要国の学位取得者数（自然科学系）

(1) 全体（大学院段階）



(2) 博士



注) 1. (1)全体は、修士号及び博士号の計である。ただし、ドイツは博士号のみ。米国の保健には、第一職業専門学位を含む。

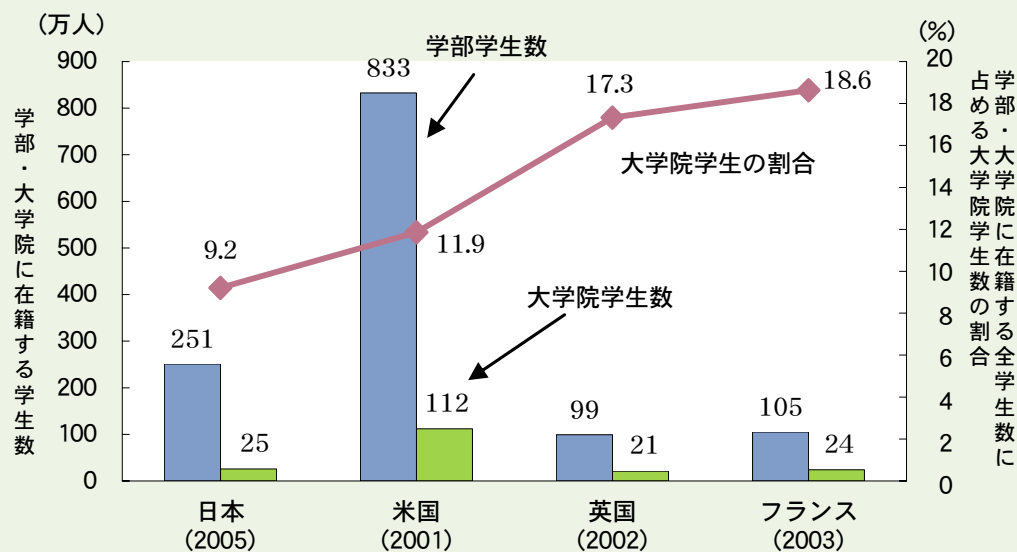
2. ドイツの1980年度は旧西ドイツのものである。

3. フランスは、統計上、理学、工学、農学の区分がなされていない。

資料：文部科学省「教育指標の国際比較（平成15、18年版）」

全学生数に占める大学院学生数の割合を主要国と比較すると、我が国は最も低い（第2-2-23図）。

第2-2-23図 ▶ 主要国における学部・大学院に在籍する全学生数に占める大学院学生数の割合



注) 米国、英国に関してはフルタイム在学者の数である。
資料：文部科学省「教育指標の国際比較（平成18年版）」

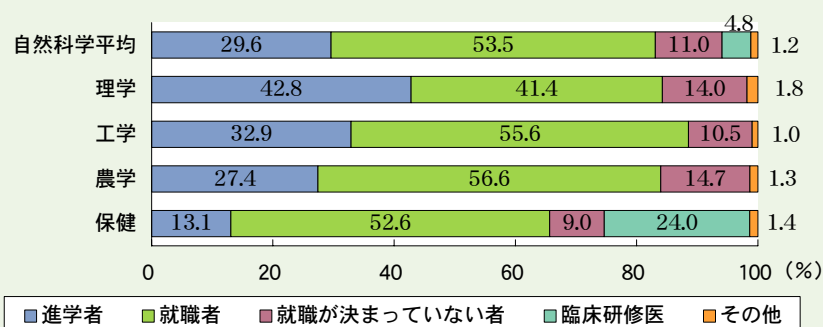
●研究人材の雇用

大学・大学院で教育を受けた研究人材が、卒業後円滑に産業界や研究機関等に受け入れられ、活躍できることが望まれる。

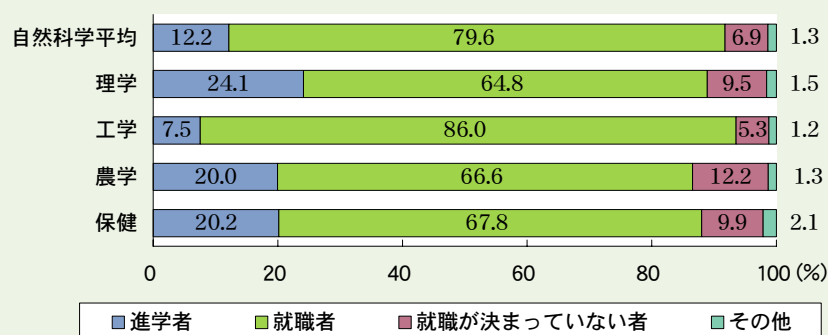
ここでは、大学卒業時、修士課程修了時及び博士課程修了時の自然科学系出身者の進路から、我が国の研究人材の雇用状況について見る。大学卒業段階では、理学専攻者の進学率が42.8%で他の専攻者と比べて高い。修士課程修了段階では、工学専攻者の進学率が低く（7.5%）、大半（86.0%）が就職する傾向が見られる。博士課程修了段階では、理学及び農学で、博士号取得後の進路が確定していない割合が高くなっている（第2-2-24図）。

第2-2-24図 ▶ 大学の学位別進路動向（平成17年3月）

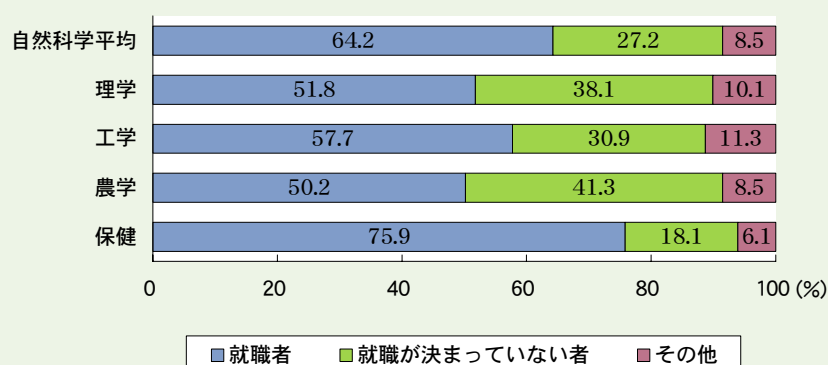
（1）大学卒業時



(2) 修士課程修了時



(3) 博士課程修了時

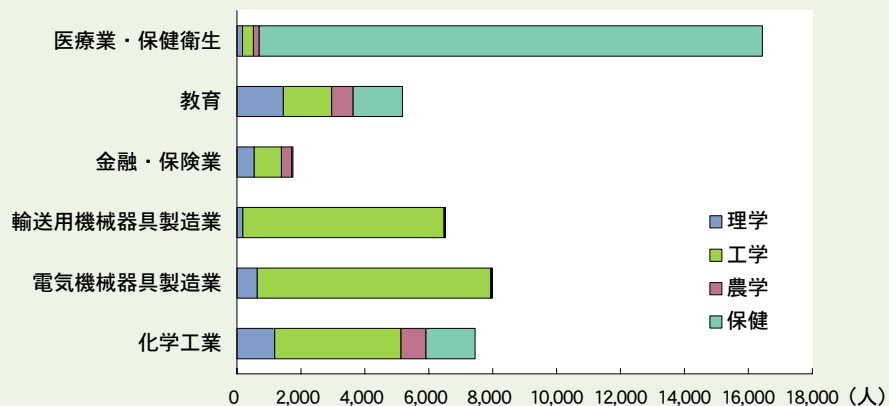


- 注) 1. 「自然科学平均」とは、理学・工学・農学・保健の合計の平均値である。
 2. 「就職が決まっていない者」とは、一時的な仕事に就いた者、家事手伝いなどであり、研究生として学校に残っている者及び専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発施設等へ入学した者でも、就職でも進学者でもないことが明らかな者である。
 3. 大学卒業時、修士課程修了時の「その他」とは、死亡・不詳の者である。
 4. 博士課程修了時の「その他」とは、進学者、臨床研修医、死亡・不詳の者である。
 資料：文部科学省「学校基本調査報告書（平成17年度）」

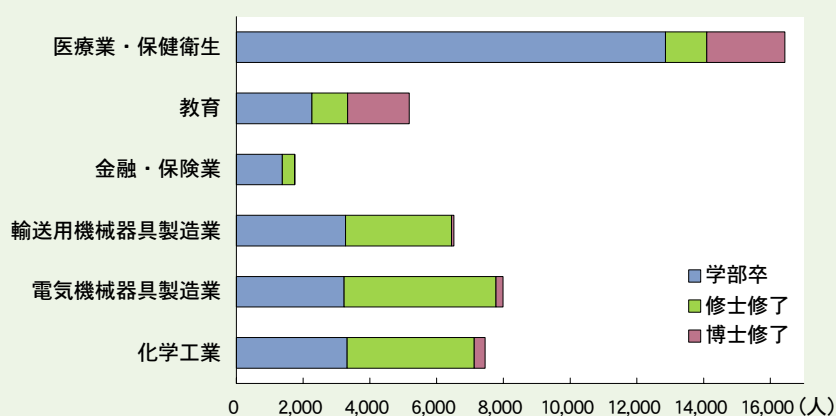
いくつかの産業について自然科学分野出身者の専門別採用状況の特徴を見ると、電気機械器具、輸送用機械器具といったほとんど工学専攻者によって占められている製造業がある一方で、化学工業のように理学、工学、農学、保健分野から幅広く採用する製造業もある。また、電気機械器具製造業をはじめとして、製造業における修士課程修了者の採用割合が高いのに対し、博士課程修了者の採用割合は低い（第2-2-25図）。

第2-2-25図 ▶ 主要産業における専門別・学位別採用状況（平成16年3月）

（1）専門別



（2）学位別



資料：文部科学省「学校基本調査報告書（平成17年度）」